

## 公明党の自立路線時代(7)

平野 貞夫  
元参議院議員

### 消費税国会の準備と「公明党の混乱」

「浜幸暴言問題」が予算委員長辞職で片付き、竹下政権はいよいよ年内1998(昭和63)年の消費税国会の準備に入る。4月11日、小沢一郎官房副長官から呼び出され午後2時にキャピタル東急ホテルに行く。なんと大蔵省の文書課長、主計・主税局の各総務課長の顔が並んでいる。消費税臨時国会の勉強会で、重要法案審議臨時国会の事例を説明せよとの事。

「野党の顔を何かで立てないと成功しない」と具体的事例を説明すると、大蔵省側は「野党が食い逃げするなら、消費税導入は今年やる必要はない」と頭の固いこと。「野党が信義を守るよう説得するのが与党自民党の仕事だ」と言う、「野党も自民党も信用できない」と、彼らは政治自体を信頼していない。

大久保直彦公明党書記長が訪ねて来て「大橋問題で相談することになる。その時はよろしく」と、10分ぐらい懇談して退室した。権藤議員は「大橋問題で公明党執行部が浮き足立ち、税制問題を冷静に考える余裕がなくなった」と話したのが気になった。25日には第112回通常国会が閉会となる。

6月21日午後1時、大久保書記長に呼ばれ、議員会館の事務所に行くと、石田幸四郎副委員長・伏木和雄副委員長が待っていた。大久保書記長は元氣なく、両副委員長も疲れた様子だった。「文藝春秋」に、「一宗教団体の創価学会の会長である池田大作氏が、公党である公明党の人事を握っている」等と指摘した大橋議員の問題で、頭を抱えていた。以下はその時のやりとりである。

○大久保 大橋が今日、原(健三・衆院)議長に要望書を届けたが、これがコピーだ。要望書の性格と問題点を説明して欲しい。

○平野 誰でも国政などについて自分の意見や提案を、政治的力のある人に要望書として出すことは、日常的にやっていること。現職の議員がやるのは珍しいことですが。

内容を見ると国会運営関係では、大橋議員自身が疑

臨時国会の大まかなシミュレーション、7月中旬召集、8月上旬税制改革特別委員会設置、下旬に本会議趣旨説明、竹下登総理訪中後に法案審議に入り、10月中に成立させることを目標にと説明して、小沢副長官は全力で野党説得に当たることになる。

政府側が消費税臨時国会の準備を本格化させた連休明けの5月9日に「公明党・創価学会に大変な問題が起こった」と、権藤恒夫公明党代議士から電話。「月刊『文藝春秋』に、大橋敏雄(衆院福岡2区選出公明党代議士・当時公明党除名処分)が池田(大作)名譽会長の批判を書いて、九州地区の責任者の私が困っている。しばらくは上京できない」とのこと。

### 大橋敏雄問題の顛末

5月20日、上京した権藤議員と議員会館で懇談中、

惑があると思われるので証人として出頭して疑惑を晴らしたいこと。また、池田名誉会長を「政教分離問題」で証人喚問して欲しいということ。二点とも議長の所管でなく、委員会のことで関係委員会に要望すべきだ。議長は目を通すだけです。

○大久保 今、両副委員長と相談していたが、書記長として記者会見して、その辺の説明をしてはとあなたが、どうだろうか。

○平野 除名した人物が、議長に出した要望書について、書記長として記者会見するのは問題を大きくするだけです。新聞記事を大きくするだけ、無視することです。

○大久保 それもそう。記者会見やめよう。

結論が出て事務局の自室に戻って、しばらくして再び大久保書記長から「院内の公明党役員室に来てほしい」と電話。これでは公明党の職員ではないかと頭にくきたが、ぐっと我慢して顔を出すと。

○大久保 大橋のことで記者会見しないことにしていたが、大橋側が記者会見で私の政治献金のことを出したので、こっちも記者会見することにした。要望書のことを聞かれると思うので、どう言っておけばよいのか。

○平野 議長に持ち込む問題でないこと。「政教分離問題」は解決済みということ。あんまり話題にしないこと。

○大久保 今度の問題の根っこは藤原（行正公明党都議）の方にあってね。つまり、バカバカしいことが原因だよ。

○平野 どんなことですか。

○大久保 池田名誉会長に反旗を翻したことで有名な藤原行正公明党都議の次男が神がかったようになって、「私は戸田城聖の生まれ代わりだ。六代目の創価学会会長になる」と口走っているらしい。そこで、池田名誉会長の攻撃に大橋が使われているんだが。

○平野 それじゃあ、宗教上の争いが原因の問題を、政治問題として処理することになる。

○大久保 大橋が国会議員だから、政治問題ということになる。

○平野 一番悪いケースだ。原因が宗教上の争いなのに、現職の議員の問題をとやかく言っても解決しない。泥沼化していくと、党の運営や国会対策が冷静にできなくなる。

○大久保 心配してくれて、ありがとう。

大久保書記長との懇談は30分ぐらいで終わった。事

○権藤 わかった。竹入（義勝元公明党委員長）さんや二見（伸明公明党代議士）さんに相談してみるよ。

「大橋問題」で、創価学会は公明党を使って政治的に処理する方針だ。公明党の存立にも関わることになる。と気にしていた。23日の午後9時半、自宅に権藤さんから電話。

○権藤 君の話が気になり、友人で九大教授で社会学の鈴木先生の意見を聞いた。宗教問題は大変な時代となり幕末に似てきた。オカルトをバカにしてはいけない。今度の大橋問題は解決できない方法で処理しようとする大変なことになる」と、君と同じ意見だ。

竹入先生に聞いたところ、学会がかなり無理を言っていて、大橋問題を処理せよと言ってきたらしい。矢野（絢也）委員長も腹ではいやで、仕方なくやらされているようだ。

○平野 安倍派の新聞記者の中には、今回のことで「公明党は政党でないことがわかった」と言っている。今日の「夕刊フジ」に矢野委員長の健康産業のマルチ問題が出ています。

○権藤 大事なことだが、藤原・大橋の動きは、君の予想どおりだ。次男のお告げでやっているとのこと。

態の展開を気にしながら帰宅すると、午後9時頃権藤議員から電話。

○権藤 大橋のことで大久保書記長に呼ばれたそうだな。

○平野 二度も呼ばれた。原因は藤原さんの次男のことのようだ。宗教団体の内紛は「神がかり」から始まりますよ。書記長は「バカバカしい話だ」と言っていたが、それを政治的に抑えようとしている。その方がバカです。

○権藤 詳しく説明してくれ。

○平野 現代の世相は第3次宗教時代といわれ、霊能力とか超能力があふれ、若者が宗教や神秘的なもの、オカルト的になっています。藤原さんの次男も多少超能力的なものがあるんでしょう。彼が予言的なことを言っていて、それを根拠に一連の行動がなされているら注意です。仮に予言が当たるようになると、大衆は飛びつきますよ。そうなると創価学会はどうなるか。

○権藤 わかるよ。

○平野 こんなときは政党という立場を守って、きちんと国民の期待に沿って政治をやる姿勢に戻るべきです。オカルト大橋問題に政党が関わり、臨時国会に対応できませんよ。

お告げどおりになって、矢野委員長・大久保書記長のこと、これからどんどん出すようだ。

○平野 そうなれば、二人は引責辞職となる。

○権藤 厳しいことというが、党首脳がおかしくなっている。このままだと公明党は突っ走って「秋には解散だ」と、矢野委員長が考え出した節がある。

○平野 重大なことだよ。よく探ってください矢野さんにとっては保身のため、党も学会ともどうなってもいいんでしょう。

○権藤 大都会で育った、無責任政治家のやることだ。なんとしても公明を正常にするよ。

6月も終わろうとする29日、NHKのインタビューで、矢野委員長が「税制改革基本法制定構想」を発表した。公明党変化の兆しかと思っていると、30日午後4時に権藤議員から電話。

○権藤 矢野委員長は「もう代理戦争はコリゴリだ」と言い出した。大橋問題は学会の問題として、党はこれ以上さわらないようだ。そこでお願いがある。学会も公明も税制度のあり方を理解していない。小沢副長官と懇談する機会をつくってくれないか。

「大橋問題」の顛末は消費税勉強会となる。